

観賞用パイナップル新品種「ナツヒメ」

○正田守幸¹⁾・池宮秀和¹⁾・仲宗根福則¹⁾・高原利雄¹⁾³⁾・金城鉄男¹⁾・出花幸之介¹⁾²⁾・永富成紀²⁾・比嘉ひろの¹⁾・大城和久¹⁾・粟国佳史¹⁾・添盛浩¹⁾
(¹⁾沖縄農研・²⁾生資研放射線育種場・³⁾果樹研カンキツ)

【目的】

小型のパイナップル果実が細長い果柄に着生する野生種の *Ananas ananosoides* は、切り花や鉢植えとして流通しているが、さらに観賞価値を高めて用途拡大を図ることが求められている。そこで、*Ananas ananosoides* の優良な特性を活かして、突然変異により観賞価値の高い斑入りや果実形質の変異をねらって育成を行った。

【育成経過】

農水省生資研放射線育種場において 1989 年にパイナップル野生種 *Ananas ananosoides* の幼苗にガンマー線を生体照射 (0.7Gy/day、総線量 157.5Gy) した。栄養繁殖により増殖した幼苗を沖縄農試名護支場において養成し、1992 年に圃場に定植、1993 年に斑入り突然変異個体を選抜した。増殖した斑入り系統に 2000 年に「パイナップル沖縄 16 号」の系統名を付し、2001 年～2003 までパイナップル第 3 回系統適応性検定試験に供試して検討した結果、2003 年 8 月の平成 15 年度常緑果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会においてパイナップルの新品種候補として適当であるとの結論を得た。

【生育特性および果実特性】

草姿は開張で草丈は低い。栄養芽の葉色は緑にピンクや黄色の縦縞の斑入りを呈し、葉縁部にはとげが密に発生する。果柄は細長く、新植の自然夏実着生時の果柄長は 40cm 程度、太さは 0.7cm 程度である (表 1)。1 株当たりのえい芽の発生数は 1.3 本で、吸芽発生数は 3.8 本、塊茎芽発生数は 4.3 本程度である (表 1)。その後は、吸芽や塊茎芽からも果実が発生してくるので、1 株から同時に 5～6 個の果実が収穫できる。栄養芽を植え付けることにより、斑入りが維持できる。出蕾期は沖縄本島北部及び八重山で 3 月中旬頃、果実

の成熟期は沖縄本島北部で 6 月上旬頃、八重山では 5 月下旬頃である (表 1)。果実は円筒形で 20g 前後と極めて小さい。果皮色は幼果ではピンクであるが、成熟期には白黄色になり小果の突出程度は平滑である。果肉は白色で、果汁糖度 (Brix) は 8.6% 程度で酸度 (クエン酸当量) は 0.68% 程度、糖酸比が 12.7 と低く、食用には適さない (表 2)。果肉中に発生する黒目病および花樟病の発生は認められない。生理障害による裂果も発生は認められない。

【適地および栽培上の留意点】

温暖な条件下の酸性土壤に適し、花芽誘導により切花用および鉢物用観賞パイナップルとして周年出荷ができる。果実は小さく、糖度が低いので食用には適さないが、室内で長期間維持できるのでインテリアプラントとして利用できる。ただし、緑葉にピンクや黄色の縦縞の斑入りを呈している葉色が夏期は濃く鮮やかで美しいが、冬期は葉が退色し、観賞価値が低下しやすいので、保温対策などを講じる必要がある。



表1. ナツヒメの生育特性

品種名	草姿	とげ	果柄長 (cm)	冠芽 (本)	えい芽 (本)	吸芽 (本)	塊茎芽 (本)
ナツヒメ	中間	多	39.7	1.1	1.3	3.8	4.3
<i>A. ananosoides</i>	中間	多	47.8	1.1	2.0	3.2	4.0

表2. ナツヒメの果実特性

品種名	出蕾期	成熟期	果形	果皮色	果実重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)
ナツヒメ	3月中	5月下旬～6月上旬	円筒	白黄	21.0	8.6	0.68
<i>A. ananosoides</i>	3月中	5月下旬～6月上旬	円筒	白黄	43.0	6.8	0.77